

イタリア留学で魅せられた瓶詰食品
きれいな水と野山で育った食材で



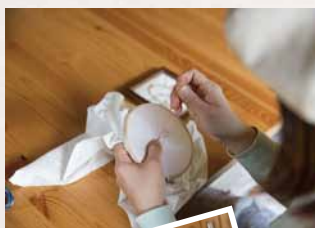
田辺市龍神村
金丸 知弘さん
TOMOHIRO KANAMARU
東京都から移住

金丸さんの住む「龍神の家」には、6棟の住宅があり、染色家や映像作家、エアブラシアーチストらが住む。店名の「CONSERVA」は、イタリア語で保存することやジャム、瓶詰などをさすことばという。

リラックスした暮らしに
自然と笑顔がこぼれる



天気の良い日には、屋外で過ごすことも多い。すぐそばまで、シカやサルがやってくる。「東京では考えられない環境」と知弘さんは笑う。移住してから刺繍を始めたというりささん。どんなに忙しい日でも、青い山々や鳥の声、川のせせらぎが、ゆったりと一家を包み込んでくれる。



オリーブオイルをたっぷり使った本場イタリア仕込みのフォカッチャなど、焼きたてのパンも人気商品のひとつだ。



本場イタリア仕込みのパンは
土日月の限定販売

小さなテーブルがあり、カフェも楽しめる。コーヒーや紅茶のほか、リンゴンベリージュース、うめジュースなどドリンクも揃え、2人で店を切り盛りする。店の棚やテーブルは、地元の木材を使って知弘さんが作った。



かんきつ類からベリー系、キウイまで、さまざまな果物をミックスした主力商品のジャムは、季節によって中身も変わる。このほか輸入食品やスパイスの量り売りもしている。

CONSERVA (コンサルヴァ)
住所 / 田辺市龍神村小舎972-36
電話 / 080-4972-3760

わかやまでの日々の暮らしとまちブラ日記



「龍神地釜とうふ工房 みるあん」は、昔ながらの製法を守る豆腐店。カフェも人気。

緑の中にひっそりと佇む「味工房 梅樹庵」は地元の南高梅を使ったドレッシングでも有名なお気に入りのカフェ。



近くの「がまの湯」は自宅のお風呂代わりによく利用しているのだとか。



龍神温泉は日本三美人の湯として知られる温泉郷。「旅館 上御殿」は、風情あるたたずまい。



家のすぐ近くを清流が流れる。夏になれば、水遊びが楽しめる。長女の犬のお気に入りのスポットだ。

緑の山間をぬがように走る日高川。春には桜、藤の花、秋になれば紅葉が、一年を通して木々や花が山を彩る。



龍神村の緑の美しさに、身体も心も癒されます



裏庭にはイタリアンパセリやローズマリーなどさまざまなハーブを植えている。店で販売するパンやジャムに使うことも。家庭で使うパクチーやカラシナも育てている。

受け入れ施策 Come on!

金丸さんが訪れた東京・有楽町のふるさと帰郷支援センター内には、わかやま定住サポートセンターがあり、移住者向けのイベントや現地体験会の募集も行っている。このほか、移住をサポートする支援制度も充実。金丸さん夫婦は移住の際、家族構成などに応じて最大250万円が交付される若年移住者暮らし奨励金の制度を利用した。

詳しくは
<https://www.wakayamagurashi.jp/how-to/support/>

村の大半を山林がしめる田辺市龍神村。山道を進むと、モダンなデザインのログハウスが現れる。山村定住促進を目的に建てられたアトリエ付き住宅「龍神の家」。その中の一軒、食品加工販売店「CONSERVA」(コンサルヴァ)には、リンゴとキウイ、イチゴと小豆といった珍しいコンビネーションの自家製ジャムがずらりと並んでいた。

「空気がよくて、水がきれい。周辺を含めて、いろいろな種類のジャムが作れる少量多品種の野菜や果物があるところ。その条件にぴったりなのが龍神村でした」と店を経営する金丸知弘さんは話す。

食環境ジャーナリストの父の影響で十代から食に感心を持ち、22歳でイタリアの外国人専門料理学校に留学、卒業後も現地の店で働いた。そのとき、無数のジャムやパスタ

「空気がよくて、水がきれい。周辺を含めて、いろいろな種類のジャムが作れる少量多品種の野菜や果物があるところ。その条件にぴったりなのが龍神村でした」と店を経営する金丸知弘さんは話す。

食環境ジャーナリストの父の影響で十代から食に感心を持ち、22歳でイタリアの外国人専門料理学校に留学、卒業後も現地の店で働いた。そのとき、無数のジャムやパスタ

ソースなど瓶詰食品の文化に魅せられ、自分でも作ってみたいと思うようになった。

帰国後、東京のイタリア料理店で働きながら、起業するための候補地探しで立ち寄ったのが都内のNPOふるさと帰郷支援センター。そこに講演に来た「龍神の家」に住む映像作家との出会いが人生を変えた。誘われて現地見学に来た日、妻のりささんは、歯を磨こうとひと口水をふくんで驚いた。「なんて、すがすがしい水。都会と全然ちがう!」。その後、ほとんど拍子に移住が決まった。

それから1年余り。ジャム作りや仕込みで、日によっては東京にいたときより忙しいときもある。「それでも全然ストレスがない」と2人。「当初は田舎暮らしに反対だった中学2年の長女が『山があるってほっとするね』って。ほんと、その通りだと思えます」と笑った。



都会暮らしからは何もかも一変。今では、どこに行くにも車がないと始まらない。「でも、渋滞がないから運転は快適」とりささん。現在、介護関係のアルバイトをしながら資格取得を目指している。